

二〇二四年を振り返って

看護学科3回生 小川里菜

今年度は初めて西医体にマネージャーとして参加させていただきました。昨年度の西医体は、実習がかぶってしまったため行けず、今回参加して、その会場の大きさに驚きました。大会でのマネージャーの仕事は、記録付けや持ち物の管理、次の試合の時間把握、動画撮影など多岐にわたります。私たちは大会を何回も経験したわけではなく、マネージャーには剣道をしたことがない人がほとんどのため、最初は無事終えられるのかの不安が大きかったです。しかし、その心配をよそに後輩の方達は、それぞれ連絡・連携しあっており、私が知らないところで勉強して、成長していたんだなと感じました。普段の生活が忙しく、あまり部活に顔を出せませんでした。大会を通して、普段の部員の様子を感じ取れたのはよかったと思います。プレイヤーをサポートするために大会に一緒に行きますが、試合が終わってから感謝を述べられたときには、行ってよかったなと思うことができました。

引退後、私はもう部活に顔を出すことがなくなりますが、皆さんの活躍は応援しています。部員一人ひとりの頑張りが、きっと新しい目標になると信じています。そして何より、剣道部という居場所を残して待っていてくれた皆さんにはとても感謝しています。ありがとうございました。

これからも、剣道部がますます素晴らしいチームになっていくことを願っています。次の世代のマネージャーも、選手とともにたくさんさんの経験を積んで、部活を支えてほしいと思います。